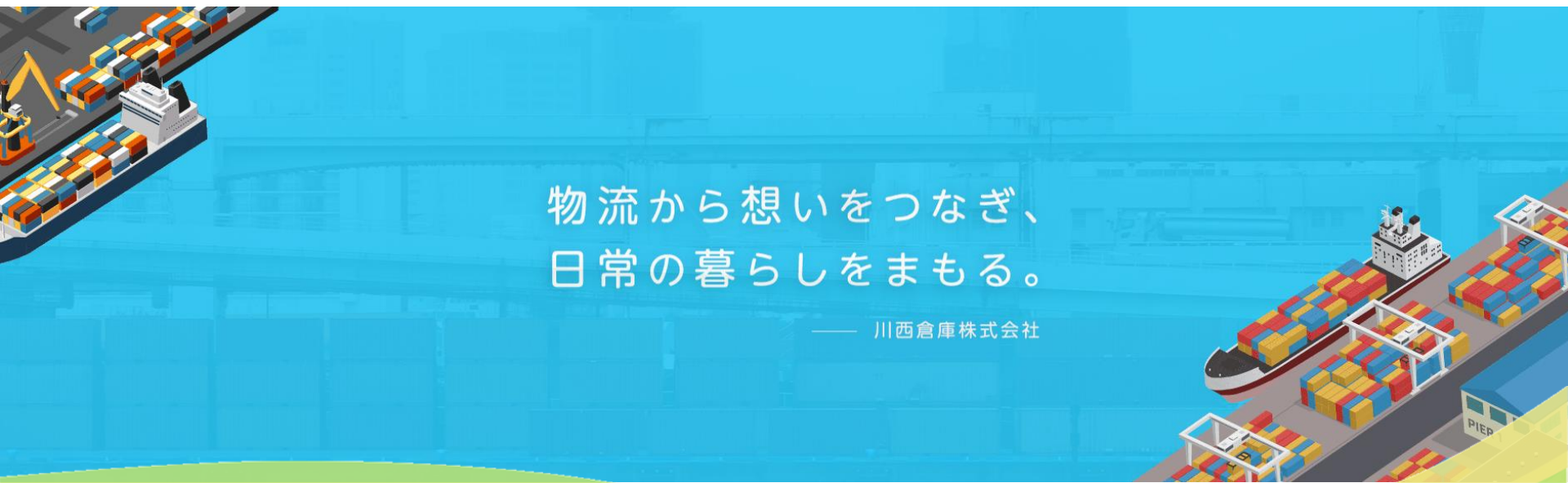


2023年2月26日

川西倉庫株式会社

証券コード：9322

2023年3月期 第2四半期 決算説明会



物流から想いをつなぎ、
日常の暮らしをまもる。

—— 川西倉庫株式会社

目次

1 会社概要

2 当社事業の強み・特徴

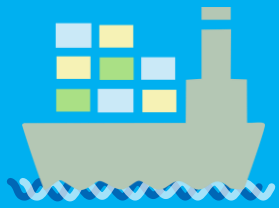
3 長期ビジョン「KAWANISHI 2030」
中期経営計画「Vision 2024 物流イノベーションへの挑戦」

4 次世代プロジェクトチーム DX/SDGsへの取組み

5 2023年3月期第2四半期 連結決算の概要

6 2023年3月期 業績予想の概要

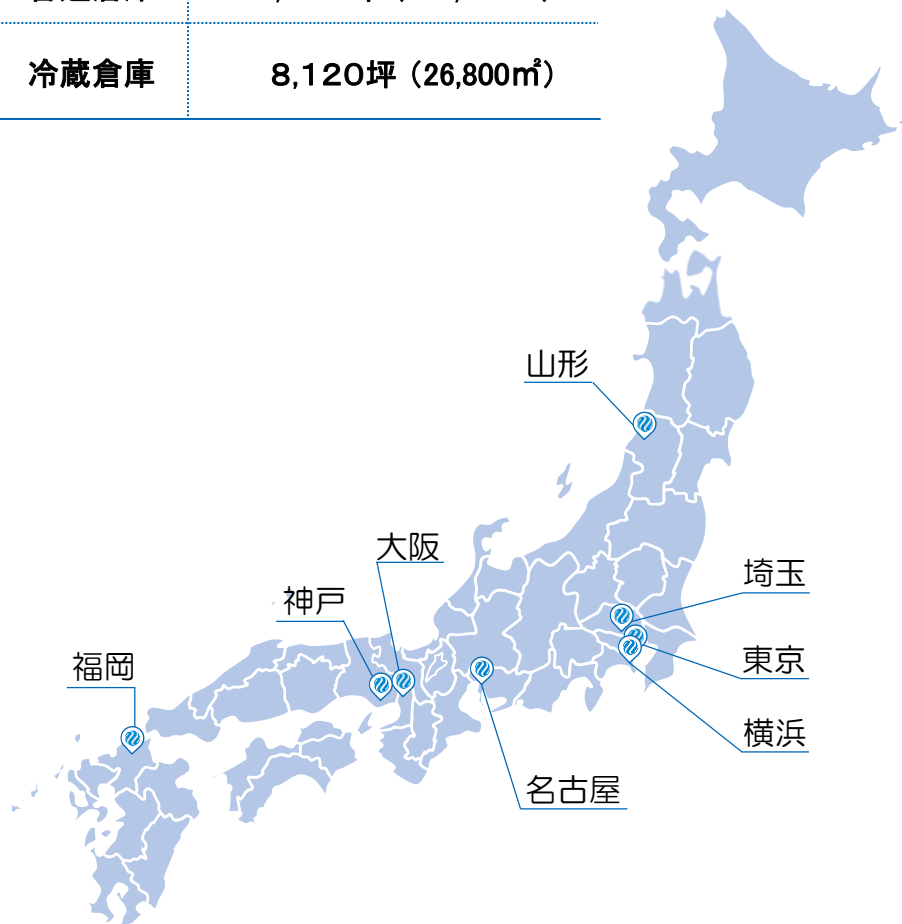
7 株主還元



1 会社概要

商号	川西倉庫株式会社 (Kawanishi Warehouse Co., Ltd.)
本社所在地	兵庫県神戸市兵庫区七宮町1丁目4-16
代表者	代表取締役社長 川西 二郎
設立年月日	1918年7月(大正7年)
資本金	21億800万円(2022年3月31日現在)
発行済株式数	8,258,322株(2022年3月31日現在)
決算期	3月31日
事業内容	普通倉庫業、冷蔵倉庫業、港湾運送業、貨物運送取扱業、 国際運送取扱業、通関業、太陽光発電による売電事業
従業員数	394名(連結613名) 2022年3月31日現在

種別	面積
普通倉庫	76,600坪 (252,800㎡)
冷蔵倉庫	8,120坪 (26,800㎡)



地域	拠点数
神戸	本社 神戸支店 通関部 10事業所
大阪	大阪支店 国際部 4事業所
名古屋	名古屋支店 7事業所
横浜	京浜支店 5事業所
東京	営業部 国際部 大井営業所 (京浜支店)
埼玉	関東物流センター加須営業所 (京浜支店) 関東物流センター杉戸営業所 (京浜支店)
山形	上山倉庫 (京浜支店) 上山蔵王倉庫 (京浜支店)
福岡	九州事務所 (神戸支店)

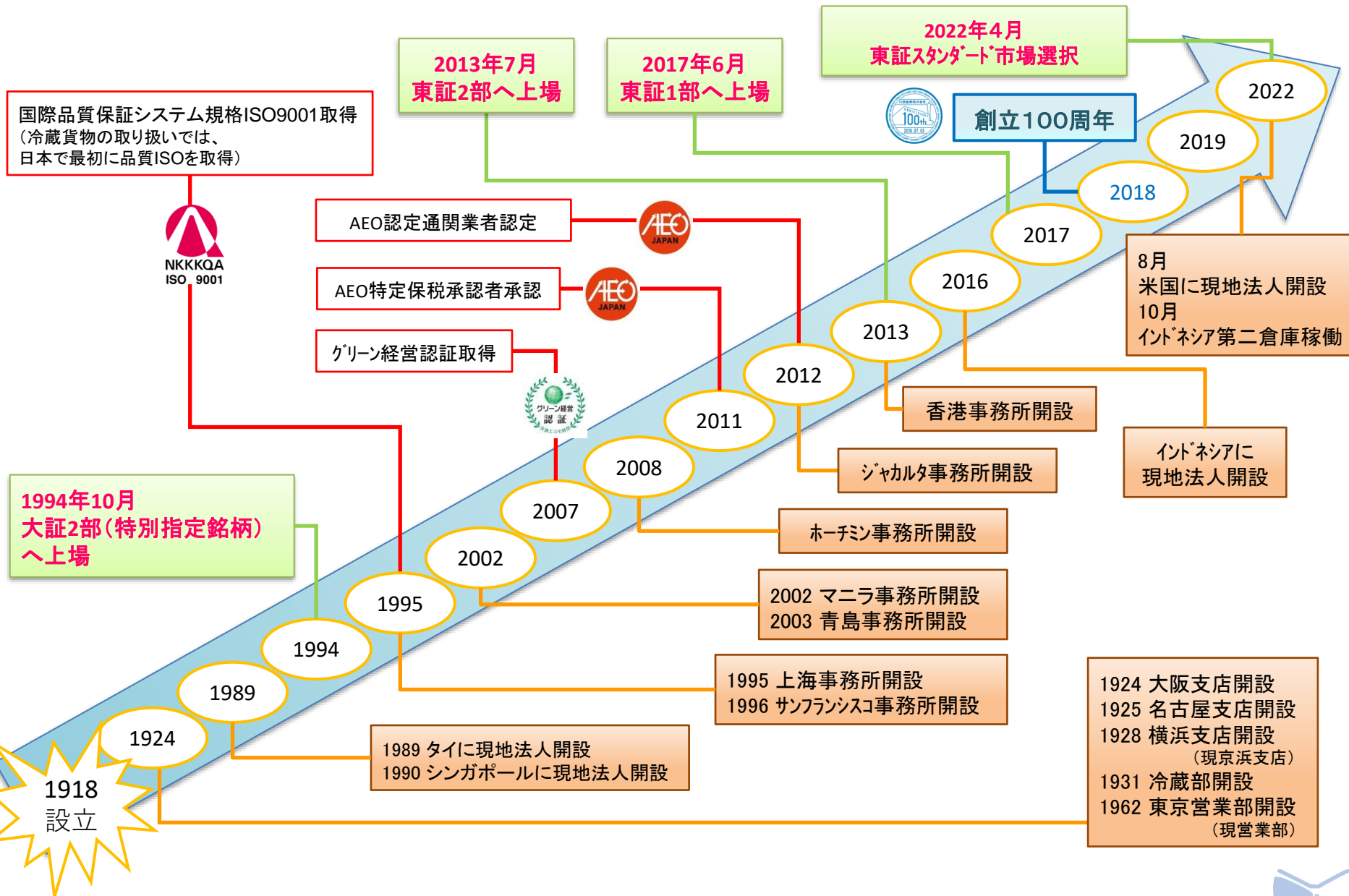


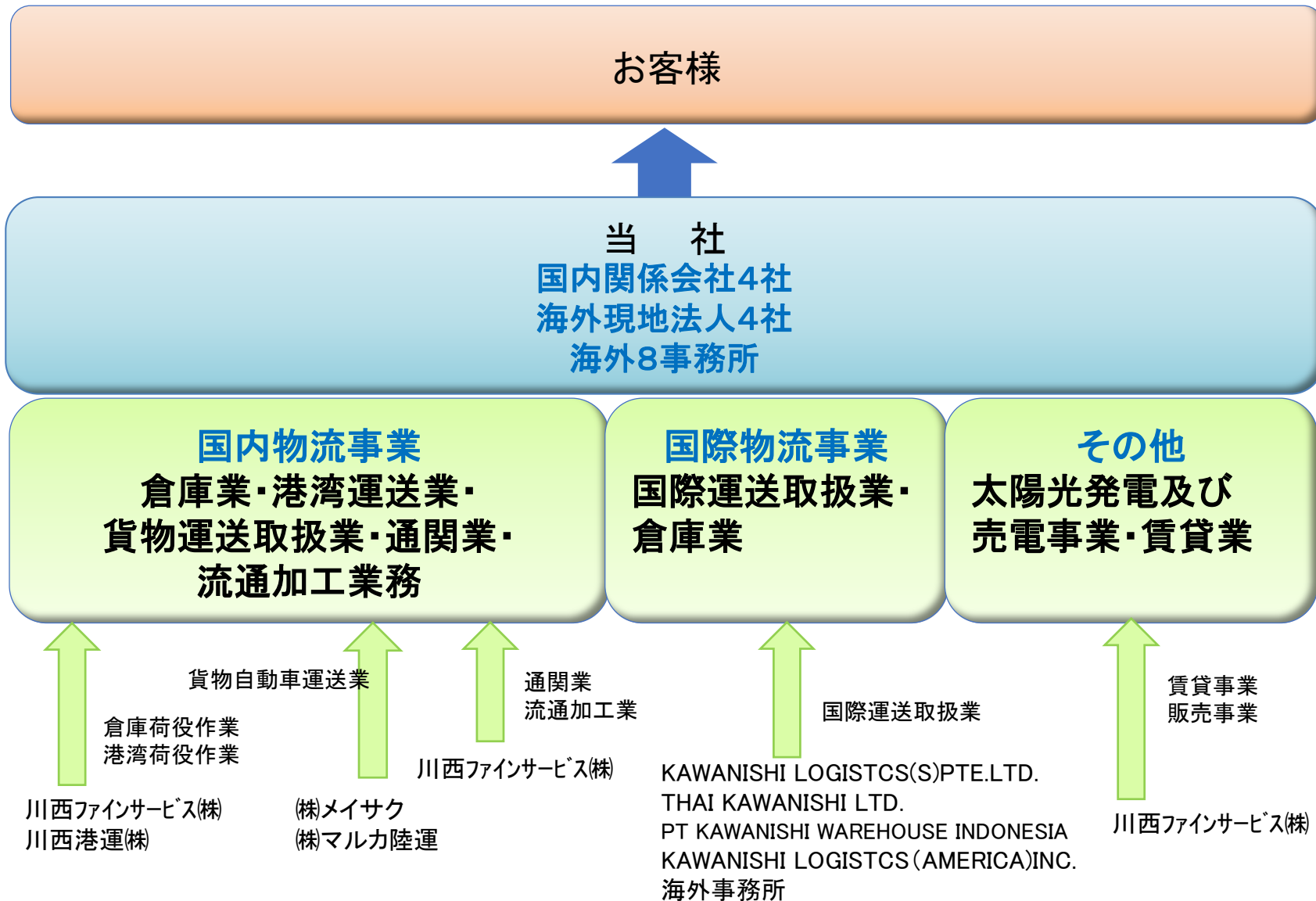
現地法人

国名	地域
アメリカ	サンフランシスコ (2022年8月26日設立)
タイ	バンコク
シンガポール	シンガポール
インドネシア (冷凍冷蔵倉庫)	ジャカルタ 4,000坪 (13,500㎡) (敷地面積 : 25,000㎡) (2022年10月20日第二倉庫稼働)

駐在員事務所

国名	地域
アメリカ	サンフランシスコ
中国	香港、上海、青島
ベトナム	ホーチミン、ハノイ
フィリピン	マニラ
インドネシア	ジャカルタ









倉庫保管

お客様より寄託を受けた貨物を倉庫に大切に保管、 円滑な入出庫を行う業務

保税蔵置場（貨物の保管）

- ◇ 輸出の許可を受けた貨物
- ◇ 輸入手続が済んでいない貨物
- ◇ 日本を通過する貨物

いわゆる外国貨物を置くことができる場所

（税関長の許可が必要）

当社は25事業所にて取得



普通倉庫

（定温・定湿、常温、燻蒸、
オートラック庫・トランクルーム）

冷蔵倉庫

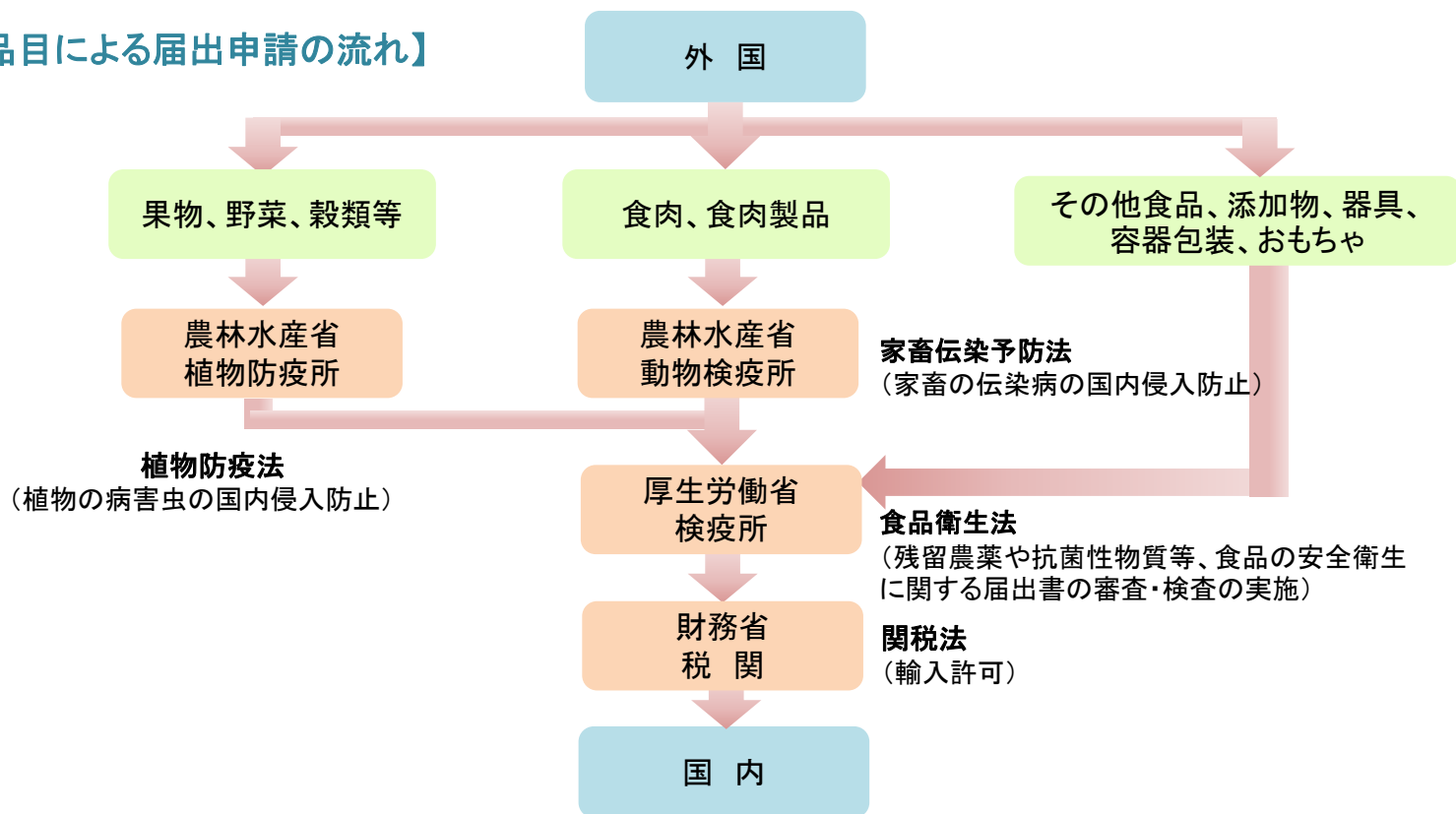
（冷蔵・冷凍・チルド）





**輸出入貨物の通関手続き代行業務
 関連諸法令（食品衛生法・家畜伝染病予防法・植物防疫法等）
 に基づく輸入申請、検査等代行業務**




【品目による届出申請の流れ】





流通加工

商品取引の利便性を高める質の高いサービスをご提供

- 「倉庫」  お客様の生産活動の一端を担う加工拠点
-  商品の高付加価値化
-  リードタイムの短縮や物流経費の削減



自動車関連商品のアソート(詰合せ作業)・豆類の選別加工・各種商品のラベルや値札付け・贈答品のセット組などを行っています





輸送・配送

東京、横浜、名古屋、大阪、神戸の主要港で 海上コンテナの輸送ネットワークを展開

- ◇ 交通至便な施設立地
- ◇ 商品の特性や受け入れ先のニーズに対応
- ◇ 効率的な輸配送体制を実現

DOOR TO DOORサービスの強化等、物流の効率化やお客様の
ニーズに合わせた最適な輸送サービスを提供





港湾運送

貨物の海上運送と陸上運送との接点となる業務

- ◇ 船舶からの貨物の積み下ろし業務
- ◇ ターミナルにおいてコンテナ貨物の取り扱い業務

神戸港を基盤に特定の船会社とタイアップ、グローバルな総合物流を展開



RO-RO船への自走荷役



国際物流

お客様のニーズに対応した最適なグローバル物流のご提供

長年の国際複合一貫輸送(NVOCC)の経験と実績を生かした「カスタマイズ物流サービス」を展開

- ◇ 一貫処理システムの整備(輸出書類の作成から船積手続きまで)
- ◇ 極東、東南アジアと北米にある自社物流拠点の活用
- ◇ ASEAN域内、二国間、三国間等、あらゆるトレード形態に対応

海外拠点での貨物管理物流についても提案



※ NVOCCとは、船舶や航空機などは所有せず、複数の輸送手段を利用して不特定荷主の貨物を一貫して輸送する利用運送業者のことです。

太陽光発電および売電

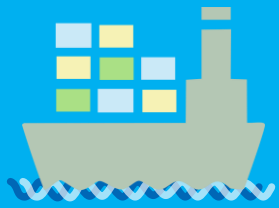
- ◇ 環境負荷低減の取り組みの一貫
- ◇ 保有資産を有効活用
- ➡ 国内8カ所の当社営業所設備にソーラーパネルを設置



名古屋港流通センター営業所

環境貢献への効果

一般家庭の消費電力 1,200世帯／年に相当
推定発電量 4,887,567kwh／年
CO2削減量 2,100t／年

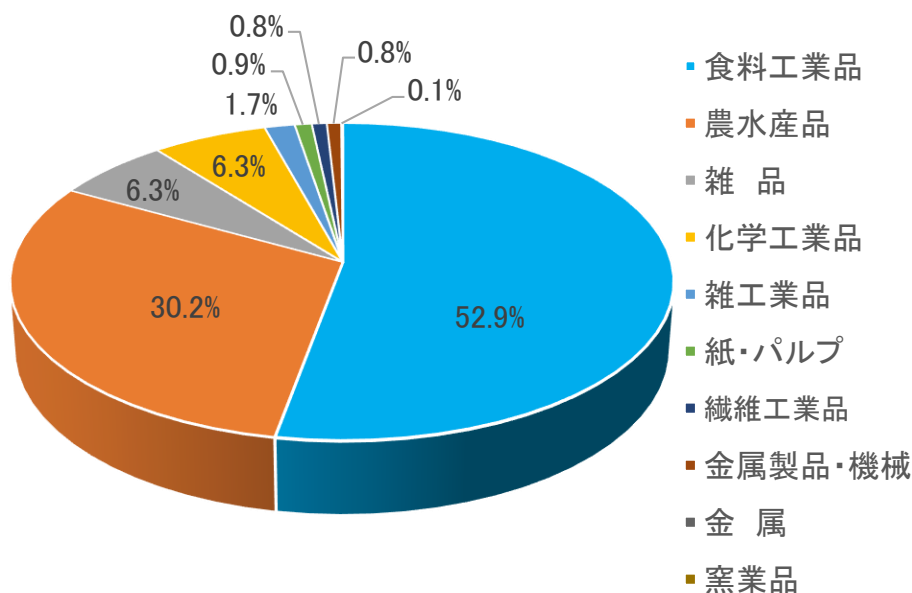


2 当社事業の強み・特徴

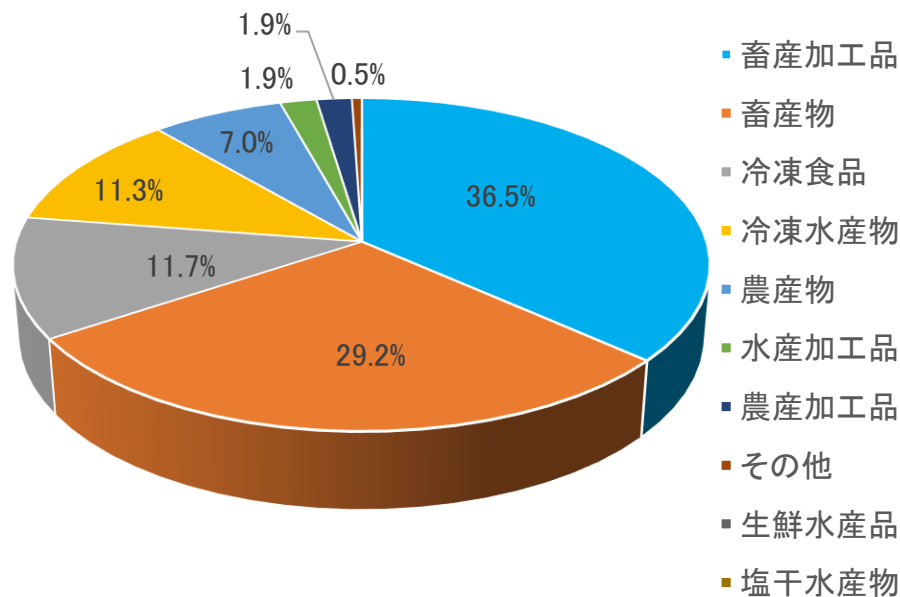
当社の主要な取扱貨物は、輸入食品です

カロリーベースで約6割を海外から輸入される食品に依存している日本において
 輸入食品をなくして食生活は成り立たないものとなっています

普通倉庫



冷蔵倉庫



<普通倉庫 主要取扱貨物>

食料工業品 53% - 乳製品・缶詰・食品(製品)・インスタントコーヒー 他
 農水産品 30% - コーヒー豆・カカオ豆・豆類 他

<冷蔵倉庫 主要取扱貨物>

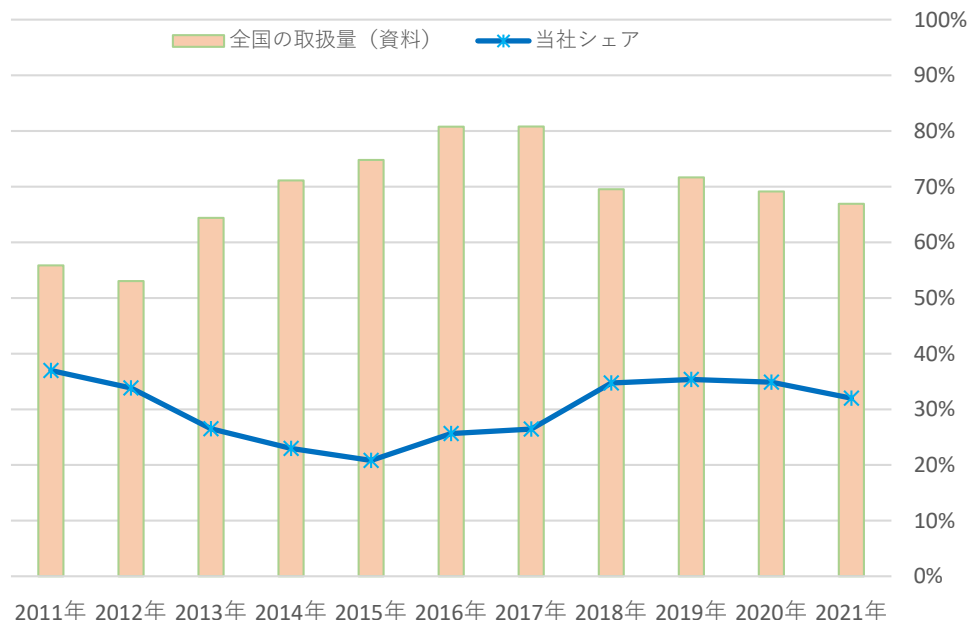
畜産加工品 37% - チーズ・バター 他
 畜産物 29% - 牛肉、鶏肉 他

特に、コーヒー豆は、全国シェアの30%超を取扱っています

(在庫数年平均)

＜産地から工場納入までの一貫業務＞

ベトナム産、ブラジル等の中南米産は、産地より一貫で海上輸送(NVOCC)を行っており、日本港到着後、当社倉入れ、輸入通関、大手ロースターの工場へのトラック納入までと産地から工場納入まで一貫で取扱うことができます



事業インフラ整備

倉庫設備

普通倉庫(定温・定湿、常温、燻蒸、
オートラック庫・トランクルーム)
冷蔵倉庫(冷凍・チルド)を完備



万全の品質管理 / きめの細かい在庫管理システム

いかなる温度帯の貨物にも対応

効率的な保管オペレーション

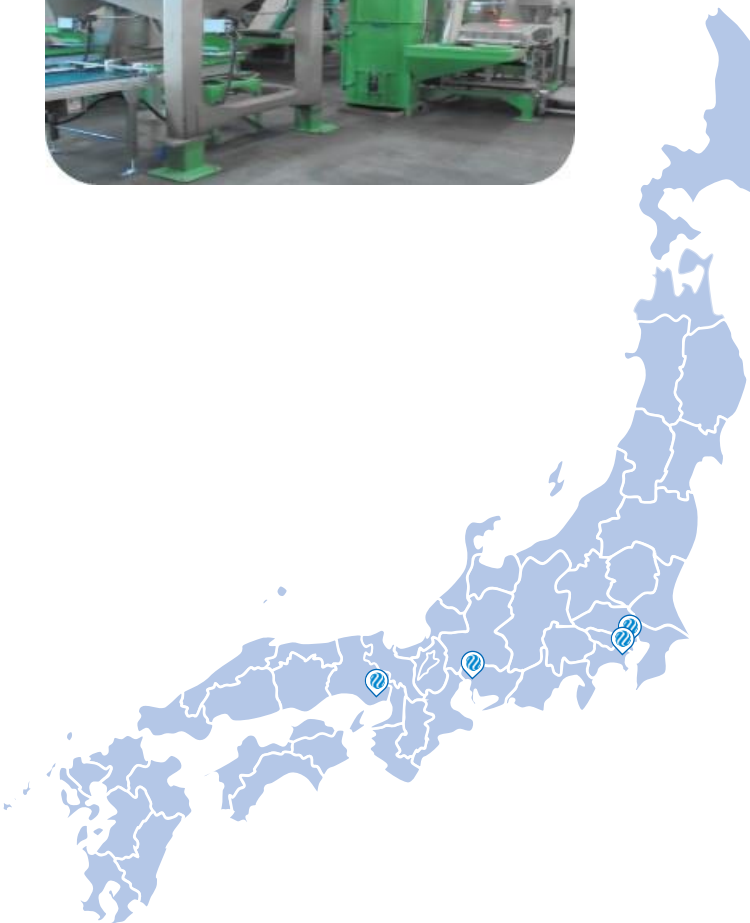
あらゆる荷姿の貨物を荷崩れや変質しないよう、また、
限られたスペースに適正に保管できるように行うハイ付や
ハイ替えは高い技術がもとめられます

※ ハイとは、貨物を荷崩れや変質しないように合理的に積んだ状況のことです。



選別機械

精度の高い色彩選別機械等を導入し、生豆から欠点豆や異物を取り除く作業も行い、
より高品質で安全性の高い商品を提供



地域	営業所名（対象貨物）
神戸	兵庫突堤営業所（小豆） 第五突堤営業所（雑豆、蚕豆） 六甲ターミナル営業所 六甲物流センター（ナッツ）*主にクルミ
名古屋	金城営業所（雑豆）*主にインゲン豆、緑豆 空見営業所（クルミ、ピスタチオ、クランベリー）
横浜	大黒営業所（小豆、雑豆、緑豆）
東京	大井営業所（ナッツ）*主にアーモンド



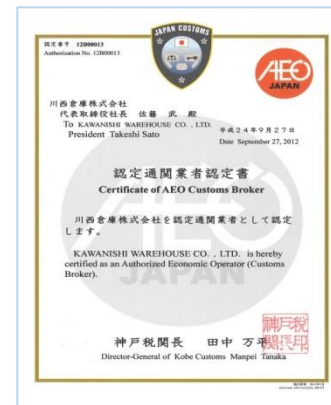
AEO認定通関業者 AEO特定保税承認者



「安心・安全な国際物流」と「スピーディな輸出入通関サービス」をお客様に提供し、また、リードタイムの短縮や安心・安全なサプライチェーンの確保等、国際物流の効率化に寄与することを目的とし、AEO制度における認定通関業者、特定保税承認者を取得

AEO通関業者 251者 全国の通関業者の約 25%
(2022年9月1日現在)

AEO制度とは、国際物流におけるセキュリティ確保と円滑化の両立を図り、我が国の国際競争力を強化するため、貨物のセキュリティと法令遵守の体制が整備された優良な事業者に対し税関が認定し、税関手続の緩和・簡素化策等が提供される制度



認定取得年月日: 2012年9月27日
認定番号: 12B00013号



承認取得年月日: 2011年5月17日
承認番号: 11C00202号



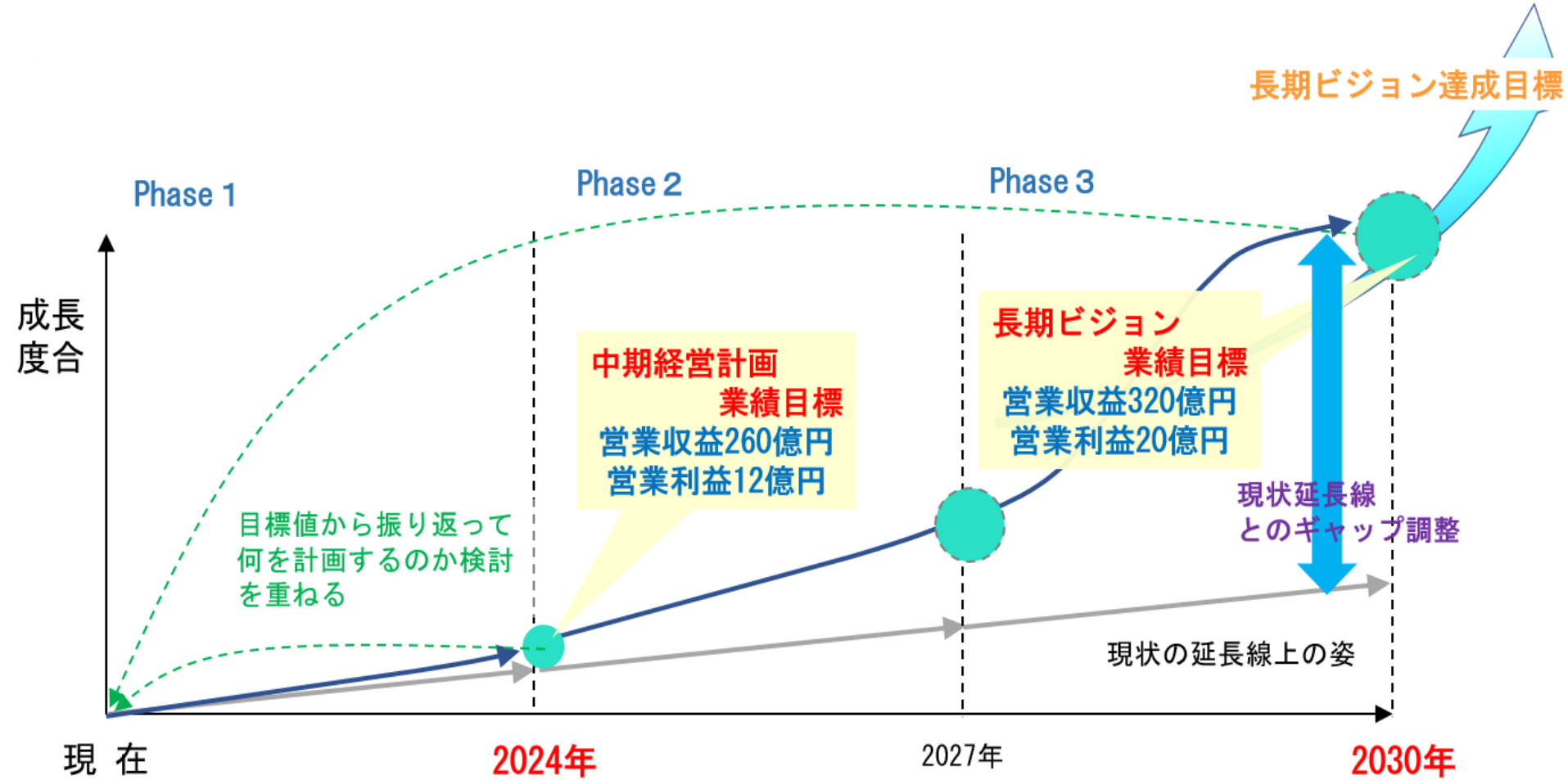
長期ビジョン

3

「KAWANISHI 2030」

中期経営計画

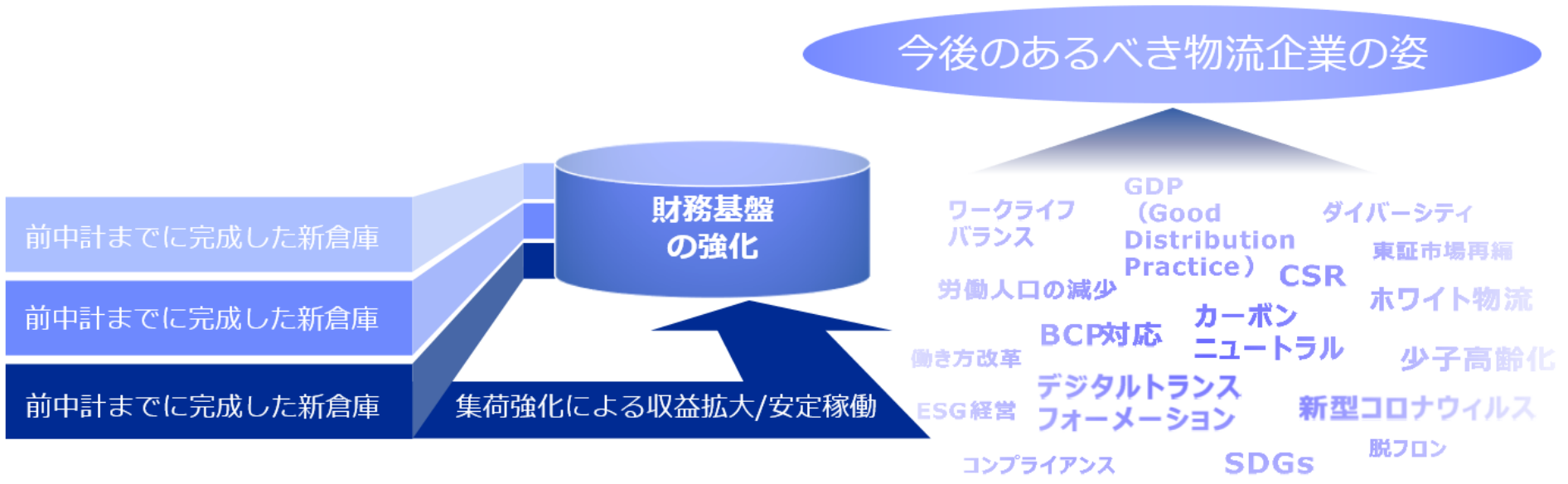
「Vision 2024 物流イノベーションへの挑戦」





Phase 1 成長戦略の具体的な施策を策定

業績の安定を維持しながら財務基盤を強化
 前中計期に新設した倉庫の集荷強化にて早期安定稼働をめざす



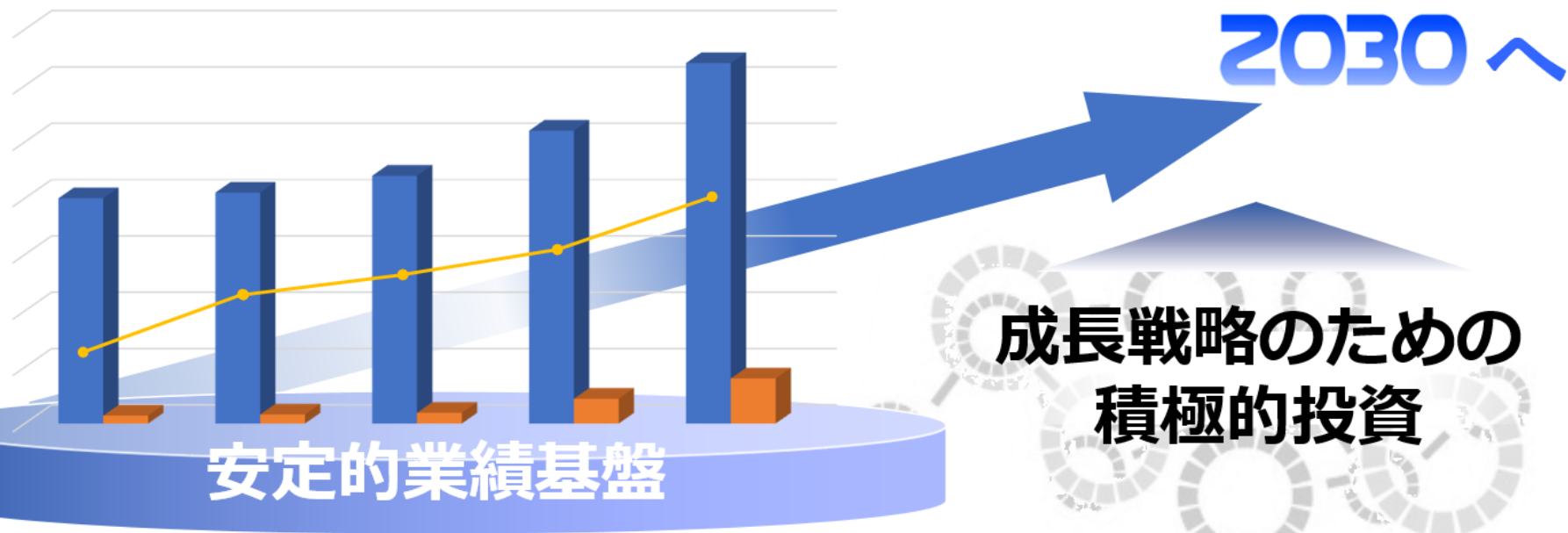
Phase1 2022~2024年度

Phase2 2025~2027年度

Phase3 2028~2030年度

Phase 2 新しい取り組みを一気呵成に進める

Phase 1 にて築いた安定的業績基盤を土台として2030年への飛躍的發展を睨む
Phase 3 での成長戦略の完成に向けて大幅な業績伸長を計画



Phase1 2022~2024年度

Phase2 2025~2027年度

Phase3 2028~2030年度

Phase 3 Phase 1・2にて進めてきた様々な成長戦略の具体的施策の完遂

川西倉庫グループ業績目標

営業収益 : 320億円
営業利益 : 20億円
営業利益率 : 6.3%

新設倉庫安定稼働による
収益利益の伸長

業務効率化による
利益拡大

次世代物流ソリューションへの挑戦

成長戦略に向けた投資計画の概要（2022年度～2030年度）

既存施設の再構築 Phase1、Phase2、Phase3	20億円
基幹システムの再構築 Phase2	10億円
成長に向けた戦略的投資 Phase 2、Phase 3	70億円
TOTAL	100億円

物流センターの機能拡充/スマート倉庫他

倉庫その他の設備投資（定温機更新他）

次期基幹システム

業務効率化ツール他

次世代型物流倉庫/VMI・GDP倉庫/運送強化

地球にやさしい物流構築（カーボンニュートラル実現に向けた取組 他）

基本戦略

① 既存事業の拡大・強化

- ▶ 物流センターの機能拡充／スマート倉庫／スマートロジスティクス構想の検討
- ▶ 物流サービスの強化 Vendor Managed Inventory (VMI 倉庫) の提案
- ▶ 新設倉庫の安定稼働および集荷強化
- ▶ 海外物流業務の強化
- ▶ メーカー物流の強化
- ▶ 運送部門強化
- ▶ 輸出貨物案件の取り扱い増加
- ▶ 通関体制の強化

② 成長に向けた取組と戦略的投資の調査研究

- ▶ 次世代型荷役機械装置や業務効率化ツールの検討
- ▶ 次世代型物流倉庫の建設地／規模の検討
- ▶ GDP 倉庫・運送の調査検討
- ▶ 既存施設の再構築の検討
- ▶ 基幹システム再構築の検討
- ▶ 地球環境にやさしい物流構築の検討

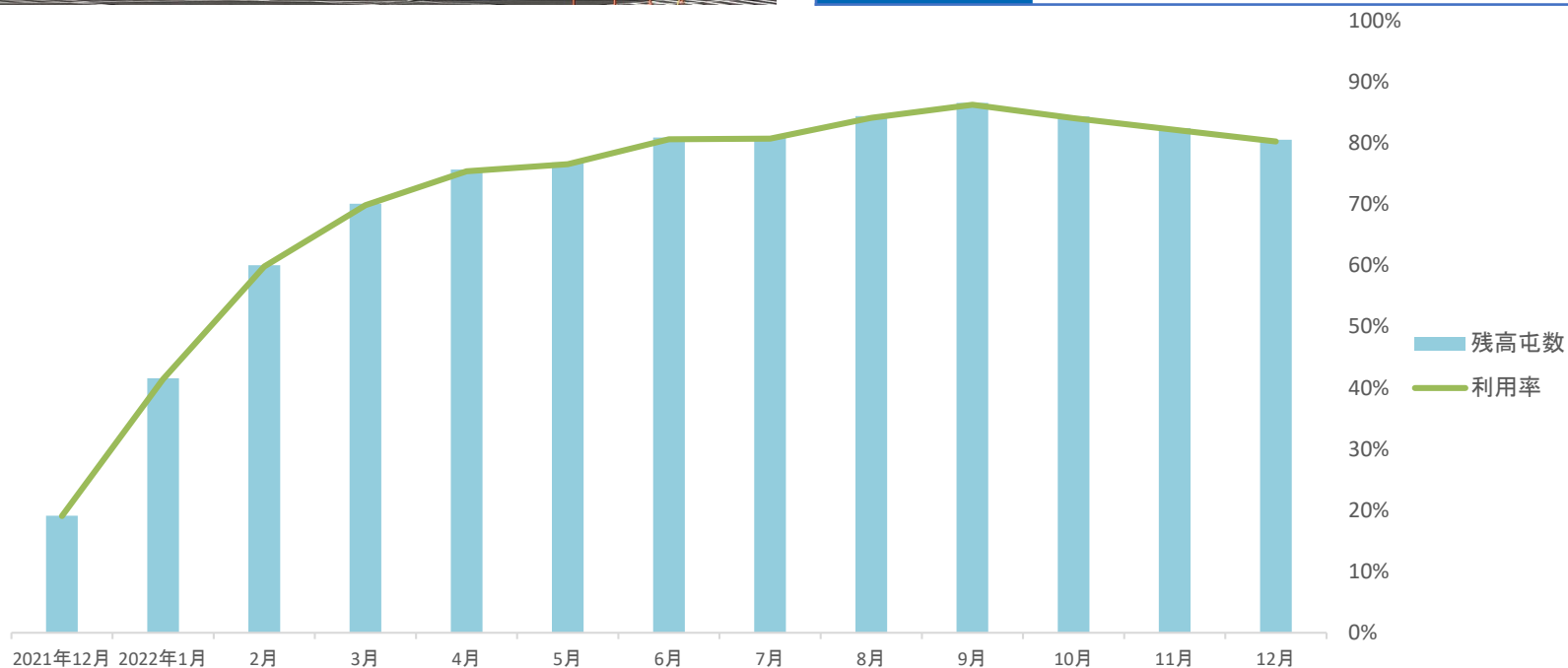
③ 社内体制の強化

- ▶ オフィスワークの改革
- ▶ RPAなどの省人化に寄与するシステムの導入による業務集約
- ▶ コンプライアンスの強化
- ▶ ダイバーシティへの対応
- ▶ 人事制度改革の実施
- ▶ 営業体制の強化
- ▶ システム化推進による競争力強化
- ▶ 労働力不足に対応した人財戦略の強化
- ▶ 社内教育体制の充実
- ▶ 財務基盤の強化

京浜支店ベイブリッジ営業所 (2021年11月開設)



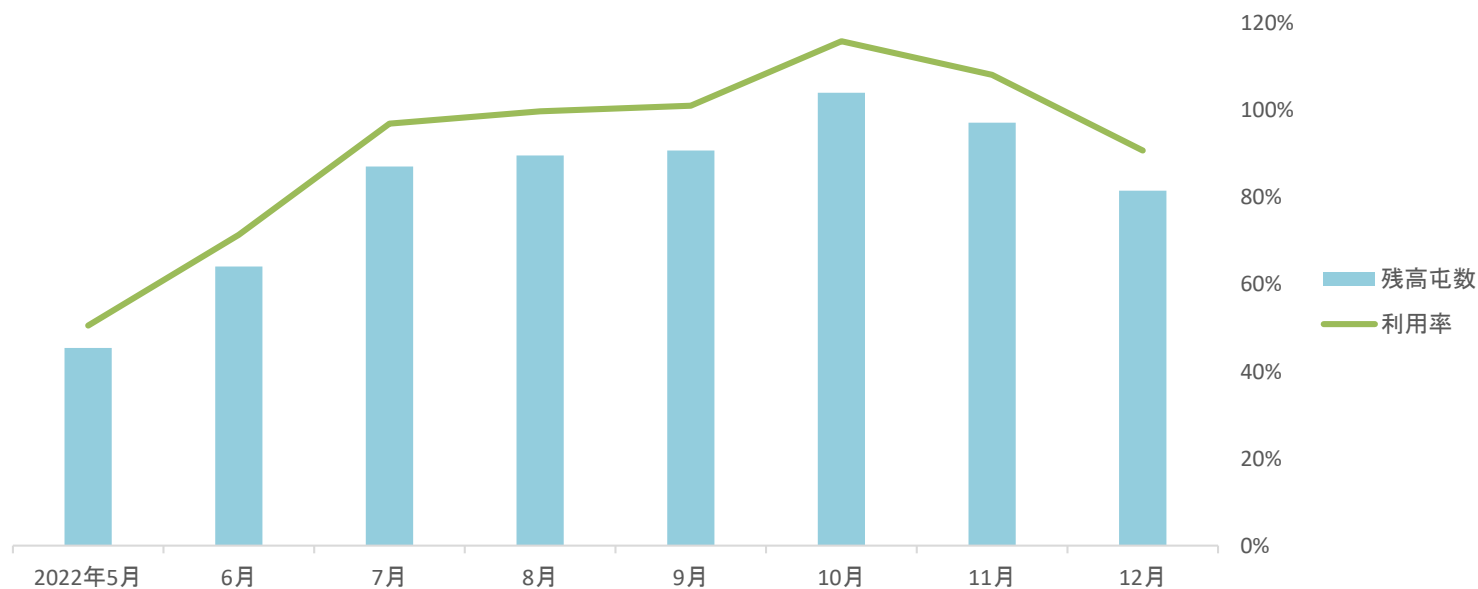
倉庫面積	17,872㎡ (5,424坪)
倉庫仕様	1階: 常温庫、荷捌場 3階: 定温庫2庫、常温庫(兼 荷捌室)1庫 4階: 定温庫2庫、常温庫(兼 荷捌室)1庫 5階: 定温庫2庫、常温庫(兼 荷捌室)1庫、 燻蒸庫1庫 6階: 定温庫2庫、常温庫(兼 荷捌室)1庫



神戸支店六甲物流センター第二倉庫（2022年4月本格稼働）



倉庫面積	11,586㎡ (3,505坪)
保管温度帯	空調設備完備 20℃設定可能



PT KAWANISHI WAREHOUSE INDONESIA

第1フェーズ(2017年10月6日開業)



第2フェーズ(2022年10月20日本格稼働)



第1フェーズ

倉庫面積	5,600㎡ (1,695坪) (敷地面積 : 25,042㎡)	倉庫仕様	冷凍庫(1,137㎡)、冷蔵庫(1,137㎡)、 定温庫(2,138㎡)
------	-------------------------------------	------	---

第2フェーズ

倉庫面積	7,900㎡ (2,389坪)	倉庫仕様	冷凍庫2庫 (うち1庫は高さ28メートルの自動倉庫完備 2,800㎡、 固定ラック庫 1,000㎡) 冷蔵庫1庫 (1,000㎡)
------	-----------------	------	--

米国現地法人「KAWANISHI LOGISTICS (AMERICAS) INC.」設立

- ☆ 米国内での輸送強化や海上輸送とあわせた一貫サービスの確立をめざすとともに、北米航路の集荷拡大を図る
- ☆ 日本発着のみならず東南アジア拠点からの輸出に着目し、米国へ輸入される Nominated Cargo への取組みの強化

設 立 日	2022 年 8 月 26 日
資 本 金	370,000 USドル(約 48,000 千円)
出 資 比 率	川西倉庫(株) 100%
業 務 内 容	物流全般コーディネート(NVOCC、フォワーディング、倉庫保管、輸送)



4

次世代プロジェクトチーム DX/SDGsへの取組み

お客さまのニーズに応じたサービスの提供と地球環境保全の両立を通じて、
社会の持続的な発展と企業価値を高め成長することをめざして

次世代プロジェクトチーム (2021年6月1日発足)

総合的な次世代の新たなビジネスモデルの構築を図るべく
企画・調査・研究等を推進する組織

■ **メンバー**：取締役5名、経営企画部長、特命事項担当部長、情報システム部長、
営業部長、総務部長、企画課長

■ DX取り組みの推進

自動倉庫、自立型ゼロエネルギー倉庫(省エネ化、太陽光発電設備等)、次世代型荷役機器(アームロボット、AGV等)、RPA等の導入検証

■ SDGsやカーボンニュートラル取り組みの推進

持続可能な世界を実現するための取り組み(コーヒー豆やココア豆の生産地である開発途上国への支援協力、物流総合効率化法・ホワイト物流推進運動の取り組み)、温室効果ガス排出ゼロ(PPAモデル、非化石エネルギー等)の検証

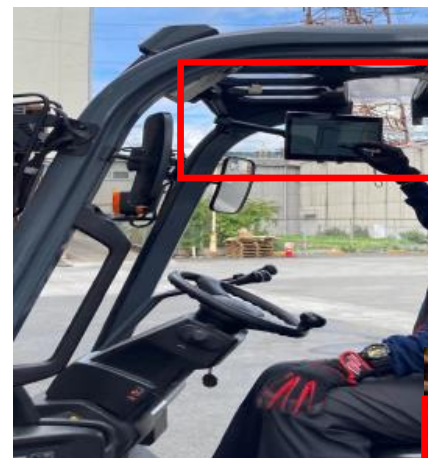
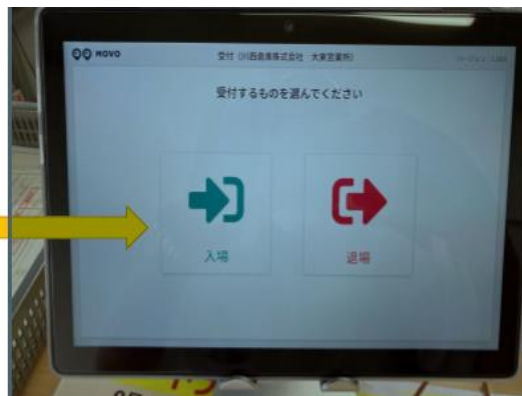
トラック予約受付サービスの導入

背景

- ☆ 大型連休前や月初の積込車両の長時間待機の解消
- ☆ トラック到着予定の見える化、バース稼働率上昇に伴う業務の効率化
- ☆ 受付業務の電子化
- ☆ 配車業務のデジタル化

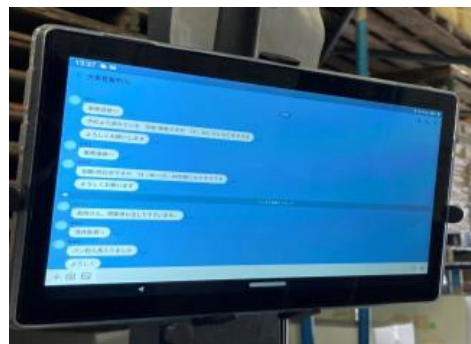
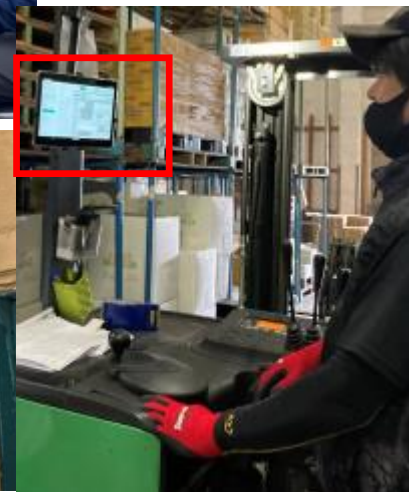


ドライバー受付



現場作業者が入場状況を把握

別階の作業者も同時に把握
入荷・出荷状況の全体を把握



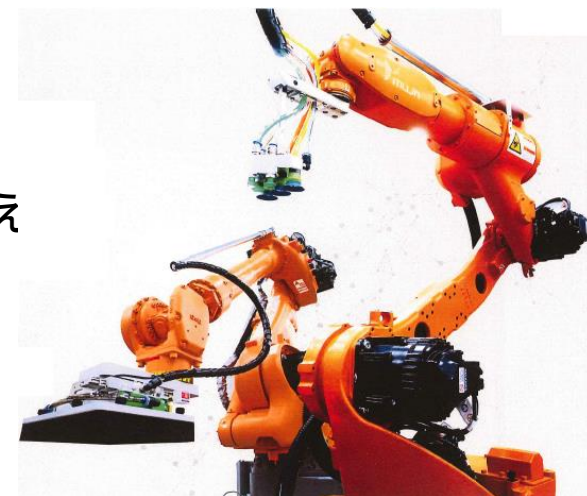
LINEでの業務伝達



パレタイザー（積替ロボット）

導入検討の目的・背景

- ☆ 輸入パレットから当社指定の保管パレットへの積替え
- ☆ 今後の作業員不足を見据えての対応



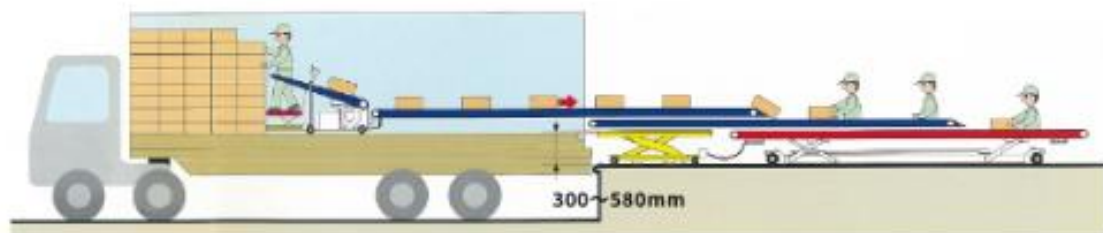
イメージ

デバンダー（荷下ろしロボット）

導入検討の目的・背景

- ☆ コンテナ内（バラ積）から貨物出し・パレットへの積替え
- ☆ 重要顧客貨物（荷姿）への対応
- ☆ 現作業員不足の解消

実際の貨物を持ち込んでの作業テスト



メイキコウ様ホームページよりイメージ



地球にやさしい物流

経済

- ・ 持続可能なインフラの整備
- ・ 最適なサプライチェーンの構築
- ・ インドネシアでのコールドチェーンの構築
(現地スタッフ採用・現地雇用の促進)
- ・ グリーン物流パートナーシップの取り組み

社会

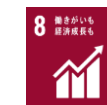
- ・ 人事制度改革の実施
- ・ 社内教育体制の充実
- ・ 多様性に配慮した労働環境の整備
- ・ 賃金支払を通じた不平等の削減
- ・ DX推進による機械化、自動化による労働負担軽減
- ・ 物流サービスの品質向上の強化
- ・ 協力会社との対話の活性化
- ・ ホワイト物流への取り組み
- ・ コーヒー豆やココア豆の生産地である開発途上国への支援協力 (IWCA協会への加入)

環境

- ・ 倉庫施設8箇所での太陽光発電の継続
- ・ グリーン経営認証の取得
- ・ 物流総合効率化法の取組み
- ・ 脱フロン化の取組み
- ・ 次世代エネルギー活用を検証
- ・ リサイクル物流の促進

ガバナンス

- ・ グループガバナンスの体制強化
- ・ 取引に関する法令遵守と継続的な啓発
- ・ IR活動を通じた投資家との対話促進
- ・ SDGsの目標達成の検証





5

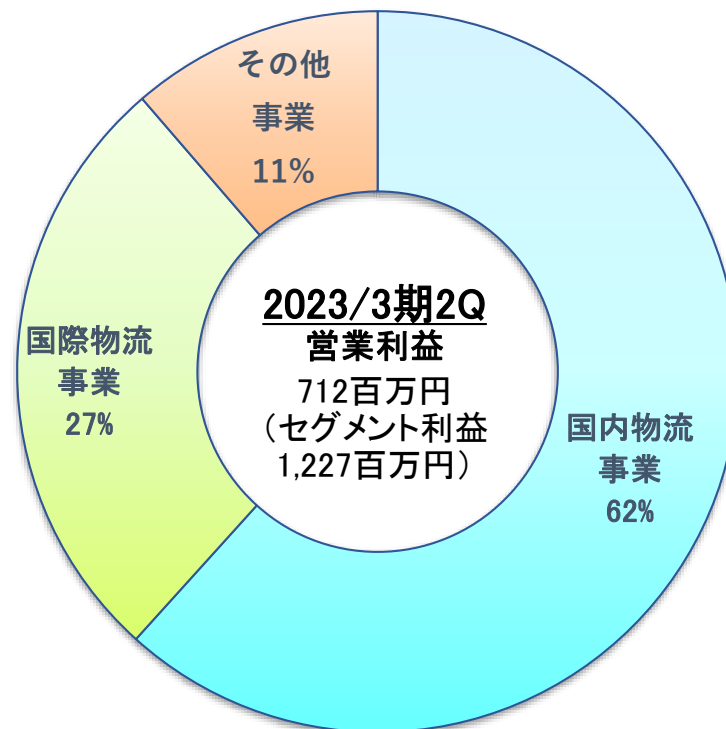
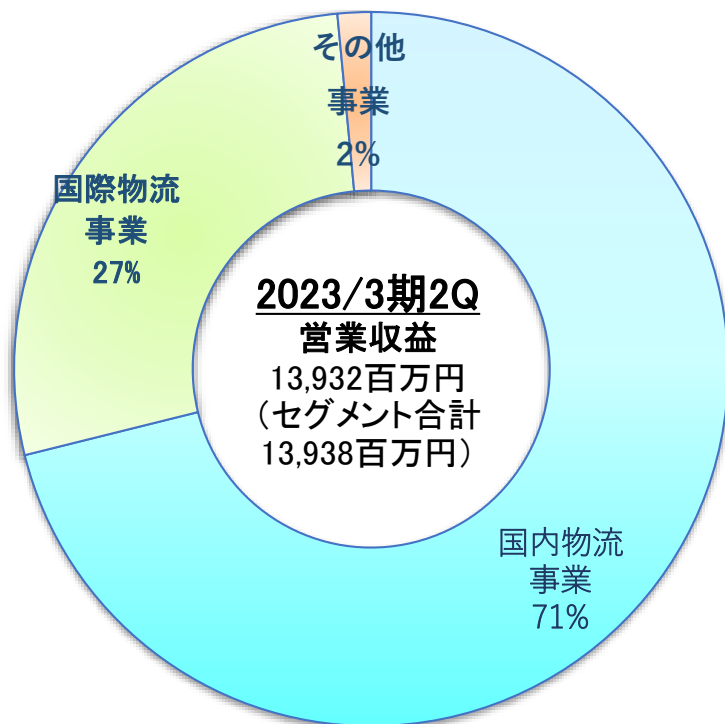
2023年3月期 第2四半期 連結決算の概要

前年同期比 増収、増益にて着地

(単位:百万円、%)

科目	2022/3期 2Q実績		2023/3期 2Q					前年 同期比	予想比
			期初予想	予想 (8/8 修正)		実績			
	金額	利益率	金額	金額	利益率	金額	利益率		
営業収益	11,152	-	12,000	13,580	-	13,932	-	+ 24.9%	+ 2.6%
営業利益	464	4.1%	350	675	4.9%	712	5.1%	+ 53.3%	+ 5.5%
経常利益	519	4.6%	365	725	5.3%	760	5.4%	+ 46.3%	+ 4.9%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	322	2.8%	235	475	3.4%	492	3.5%	+ 53.0%	+ 3.7%

- ◆営業収益 : 【国内物流事業】貨物の取扱いが増加し、倉庫、運送、港湾運送の各事業において前年同期に比べ増加
【国際物流事業】貨物の取扱いの増加、海上運賃単価の上昇もあり前年同期に比べ増加
- ◆営業利益 : 電力量等や貨物の増加に伴う再保管経費の増加はあったものの、営業収益の増加により増益
- ◆経常利益 : 受取利息は減少したものの為替差益の影響もあり増益
- ◆親会社株主に帰属する四半期純利益 : 特別利益、特別損失で特段の計上なし



国内物流事業

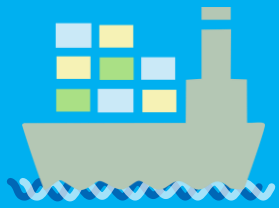
倉庫業、港湾運送業、貨物運送取扱業、その他物流関連<通関業務、流通加工業務、物流関連施設の賃貸業務>

国際物流事業

国際運送取扱事業、倉庫業(海外)

その他事業

太陽光発電による売電事業、不動産賃貸事業、物流資材の販売



⑥ 2023年3月期 業績予想の概要

(単位:百万円、%)

科 目	2022/3期実績		2023/3期業績予想			前年比	予想比
			期初予想	予想 (2/7 修正)			
	金額	利益率	金額	金額	利益率		
営業収益	23,618	-	23,750	26,940	-	+14.1%	+13.4%
営業利益	784	3.3%	700	900	3.3%	+14.7%	+28.6%
経常利益	862	3.7%	720	980	3.6%	+13.6%	+36.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	523	2.2%	475	570	2.1%	+9.0%	+20.0%



⑦ 株主還元

配当実績推移

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 予定
中間配当	6.00円	6.00円	※ 9.00円	※ 8.00円	※ 9.00円
期末配当	6.00円	6.00円	6.00円	6.00円	7.00円
年間	12.00円	12.00円	15.00円	14.00円	16.00円
配当性向	27.8%	37.4%	21.1%	20.4%	21.5%

※1. 特別配当を含む(2020年度3.00円、2021年度2.00円、2022年度2.00円)

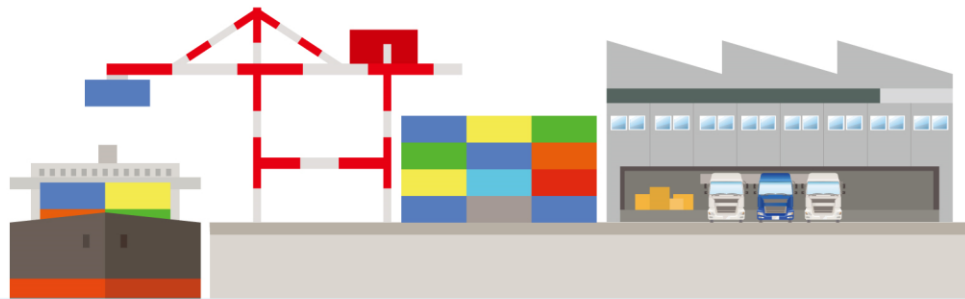
株主優待

保有株式数	継続保有期間	基準日	優待内容
100株以上	3年未満	9月末日、3月末日	クオカード 500円分
	3年以上～5年未満		クオカード 1,500円分
	5年以上		クオカード 2,000円分

対象となる株主様

- ・ 毎年9月末日および3月末日現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上の株式を保有されている株主様
- ・ 継続保有期間は、同一株主番号で、3年以上は7回連続、5年以上は11回連続して記載または記録されている株主様

ご清聴ありがとうございました。



物流から想いをつなぎ、
日常の暮らしをまもる。



2023年1月31日株価 終値991円で計算

指 標	値	指 標	値
一株当たり利益 (2023/3月期予想)	74.54円	予想PER	13.29倍
一株当たり純資産 (2022/3月期実績)	2,307.24円	実績PBR	0.43倍
一株当たり配当 (2023/3月期予想)	16円 (中間9円:期末7円)	配当利回り(予想) 【株主優待考慮】100株保有の場合(3年以上) 100株保有の場合(3年以上5年未満) 100株保有の場合(5年以上)	1.6% 2.6% 4.6% 5.7%
時価総額	8,184百万円	最低投資金額	99,100円

川西倉庫株式会社 総務部IR秘書課

TEL : (078) 671-7931 FAX : (078) 671-6526

ホームページ : <https://www.kawanishi.co.jp/>

■本資料の注意点

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。